

青森県に架かる橋の歴史を紹介しよう。

大鰐温泉街には平川が流れているが、中心街から駅前までの約1キロメートルの間に8つも橋がある。こ

の中で最も古い橋が相生橋だ。当初は木橋だったため洪水で何度も流された。温泉街の人々にとって流されない橋を造ることは悲願だった。そこで町民有志が

運動した結果、相生橋は1924（大正13）年に鉄筋コンクリート製となった。

ところが相生橋は橋桁が低く三つも橋脚があった。そのため1935（昭和

10）年8月の豪雨では、橋に流木やゴミが引つかかって川の水を堰き止め大洪水となった。「大鰐流れ」と呼ばれた大鰐史上最悪の大水

これ以後、大鰐町の8つの橋は次々と吊橋へ架け替えられ、5つが吊橋になって

いる。橋が地元の商業活動を破壊するとして反対されたこ

ともある。1884（明治17）年に完成した乾橋がそうだった。しかし、五所川原村と柏村をつなぐ乾橋のおかげで、五所川原村は発展の糸口をつかみ、

られた青岩橋だ。岩手県北から流れ八戸港に注ぐ馬淵川に架かる橋で、当初は木橋だった。だが1935（昭和10）年に鉄筋コンクリート製となり国道4号が通った。1970（昭和45）年、

青岩橋の隣に青岩大橋が完成。国道4号は大橋に移り、現在の青岩橋は歩行者専用の橋となっている。青岩橋はかつて三戸小学校児童の遠足場所だった。橋からの眺望を楽しみ、橋の下で遊んだり弁当を食べたりした経験のある方もいると思う。

## 青森県に架かる橋

中園 裕

（県民生活文化課

県史編さんグループ 主幹）

害は、皮肉にも流されなかった相生橋が招いてしまったのである。

大水害は1960（昭和35）年にも起きた。そのため5年後、相生橋と羽黒橋は橋脚がなく橋桁も高い吊橋となった。2つの吊橋は

1966（昭和41）年の鉄砲水でも流されなかった。

乾橋の後、1890（明治23）年に板屋野木村（後に板柳村）と新和村の間に

幡龍橋が誕生。1903（明治36）年に鶴田村と水元村の間に鶴寿橋ができた。そ

して1908（明治41）年には、金木村と稲垣村の間に神田橋が架けられている。

県境を分ける橋もある。1885（明治18）年に青森県と岩手県の境界に架け

日常生活の中で橋の恩恵を感じるものが少なくなつた。橋が頑丈になり流されなくなつたため、かえってその存在が忘れられているのではないだろうか。橋は物流を促し、大きな経済的効果を生み出してきたが、地域と地域を結び、人と人の心をつなぎ続ける大切な存在でもある。この事実は今後も変わらないと思う。



吊橋となった相生橋の渡り初め  
1965（昭和40）年3月7日・青森県史編さん資料より